

Society5.0・Connected Industries実現に向けて

第3回ゆる協「食品表示とパッケージデザイン」(ワークショップ)

～目指せ！日本一ゆる～い産学官金協同体～(略称:ゆる協)

＜開催報告＞

中小機構東北本部では、18名の方に参加いただきセミナーを開催いたしました。

●日時:平成30年2月20日(火) 13:10～16:30

●会場:秋田県総合食品研究センター内研修室(2)

●講師:株式会社生活品質科学研究所

シニアコンサルタント 鈴木ちはる氏

セミナー風景



【プログラム】

第1部 食品表示の重要性について

第2部 パッケージデザインの役割

第3部 ワークショップ

※終了後、個別に質疑応答

第1部 食品表示の重要性について

- ・過去の回収事故発生事例を紹介し、食品表示の重要性の確認。
- ・食品表示法への改正にともなう、旧法からの変更点、追加内容を説明するとともに、自治体や支援機関が発行している資料等を紹介。

第2部 パッケージデザインの役割

- ・パッケージデザインの役割について、「商品の魅力のアピール」と「安全・安心の情報提供」と説明。
- ・実際の商品をみて、誰をターゲットとし、何処で販売すべき商品かを参加者にて議論。

第3部 ワークショップ

- ・第1部、第2部の内容を踏まえ、仮想商品の食品表示、パッケージデザインを参加者にて議論。

セミナー開催効果

- ・参加した協議会の方より「本日の内容は非常に参考となった。参加できなかった会員に周知し、今後の協議会としての活動に生かしていく。また、これを契機に協議会会員の連携を強めていきたい。」との感想があったところ。連携(グループ化)事業の推進強化への意識付けとなった。
- ・多種類のサンプル商品を対象とした活発な意見交換が参加者同士で行われ、異なる団体の連携(グループ化)に向けた場作りとなった。

＜目指せ！日本一ゆる～い産学官金協同体(ゆる協)とは？＞

AIの発達、IoTの進展が見られる中、多様な人・組織・機械・技術・国家がつながり、新たな付加価値を創出し、社会課題を解決していくためには、異種・異質なあらゆるセクター・人のつながり求められ、同時に過度に硬直的な連携体や組織ではなく、時代や環境変化に即応できる緩やかなネットワークが求められるのではないのでしょうか・・・